

地域包括ケアシステム 調査特別委員会研究会

文京区社会福祉協議会 実践報告

社会福祉法人 文京区社会福祉協議会

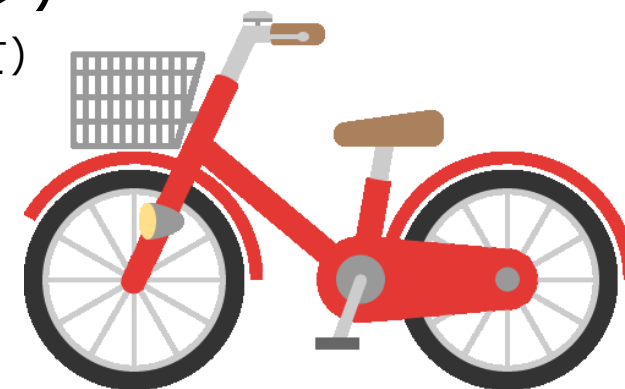
地域福祉/生活支援コーディネーター

本多桜子

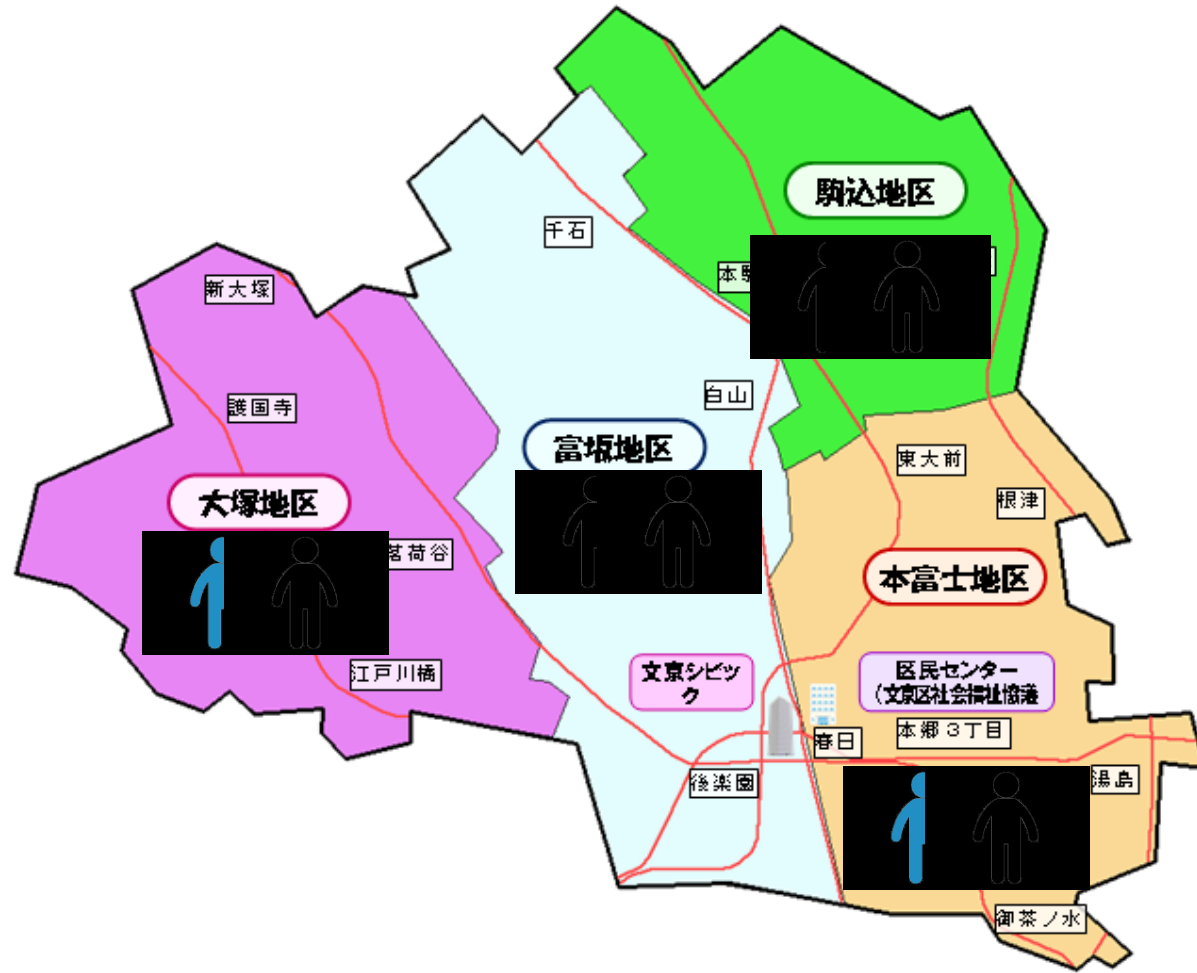
近藤秋穂

本日お話しさせていただく内容

- I はじめに（近藤）
- II 地域福祉コーディネーター活動報告（近藤）
（地域福祉コーディネーターのネットワークの可視化について）
- III 生活支援コーディネーター活動報告（本多）
（「かよい〜の」効果測定について）
- IV 終わりに（本多）



I はじめに

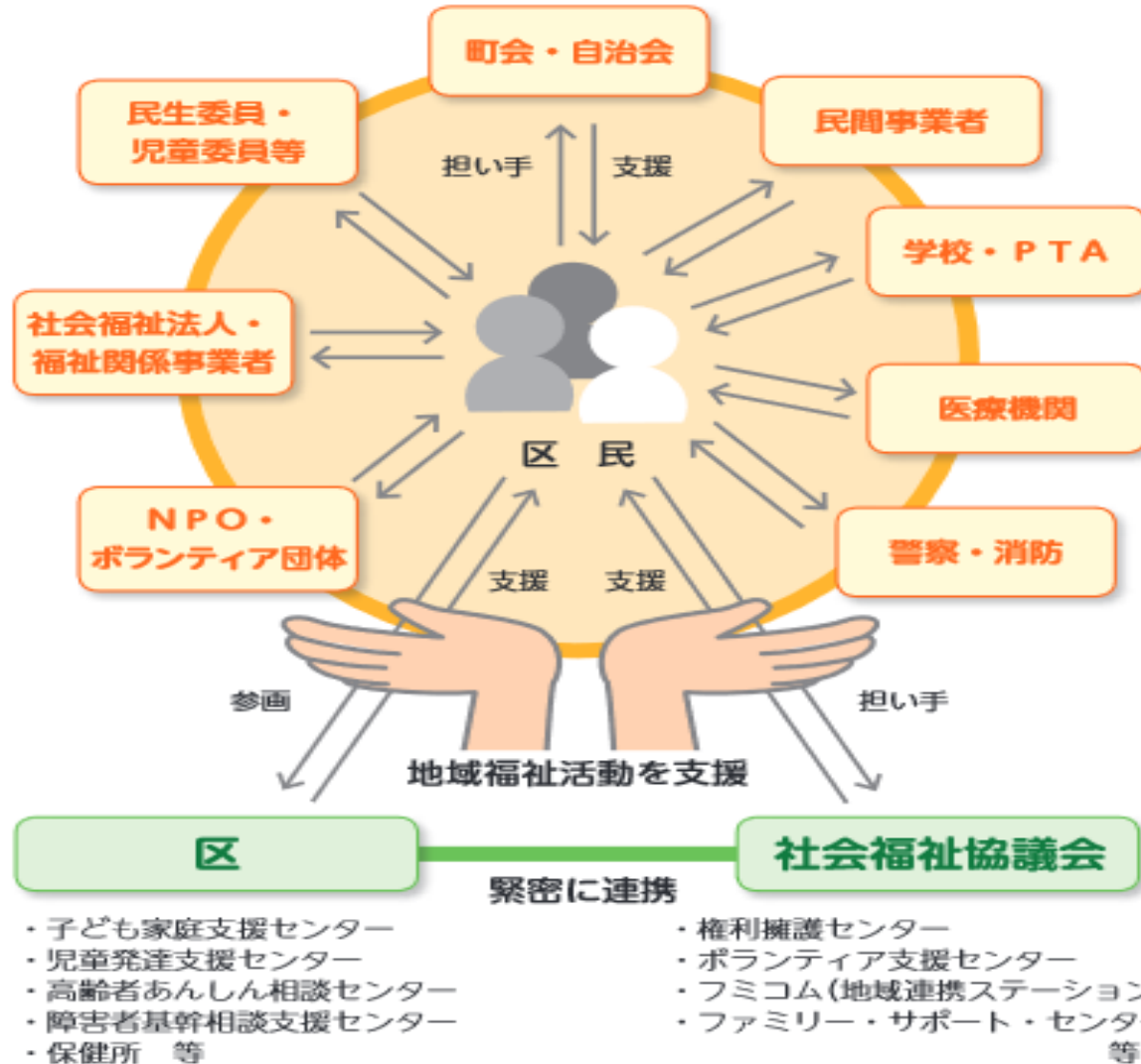


私たちが地域福祉/生活支援コーディネーターです！

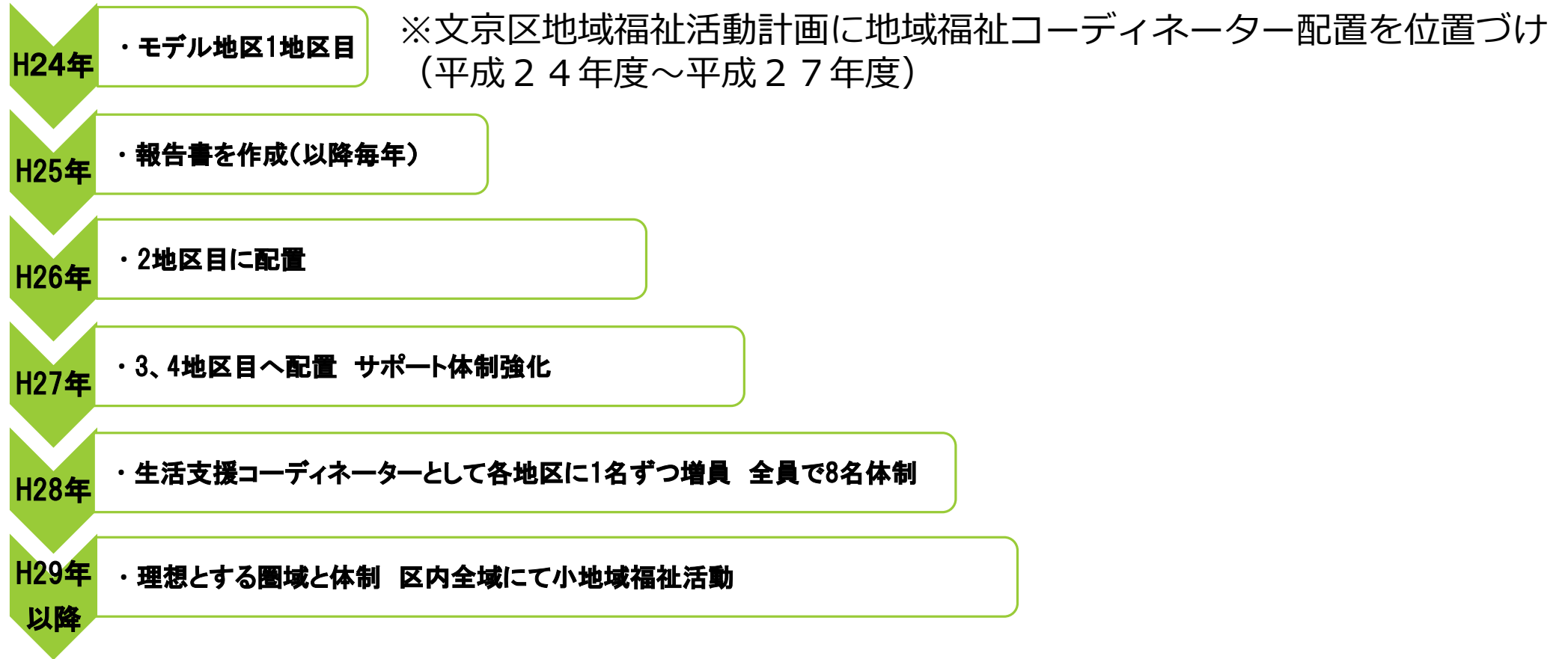


I 地域福祉コーディネーター配置の経緯

主体間の連携を強化し地域ぐるみの支え合いを推進



I 地域福祉コーディネーター配置の経緯



私たちが大事にしてきたこと…

👉 “スキマ”へのアプローチ

👉 活動資源の創出

👉 活動の見える化



👉 “スキマ”へのアプローチ

地域福祉コーディネーターの活動報告から



👉 活動資源の創出

生活支援コーディネーターの活動報告から

内部見える化の意義

実践事例を分析、可視化することで、人材育成に役立つ。また、データを扱うスキルを獲得する。理論を学ぶことによって、専門職として広い視座を身につけることができる。

外部見える化の意義

地域住民や、行政、他の自治体の社会福祉協議会など、幅広く成果を報告できる。様々な場での発表（学会など）を行うことで、文京区での実践を知らせることができる。



Ⅱ．地域福祉コーディネーター 活動報告

Ⅱ 地域福祉 コーディネーター 活動報告

目次

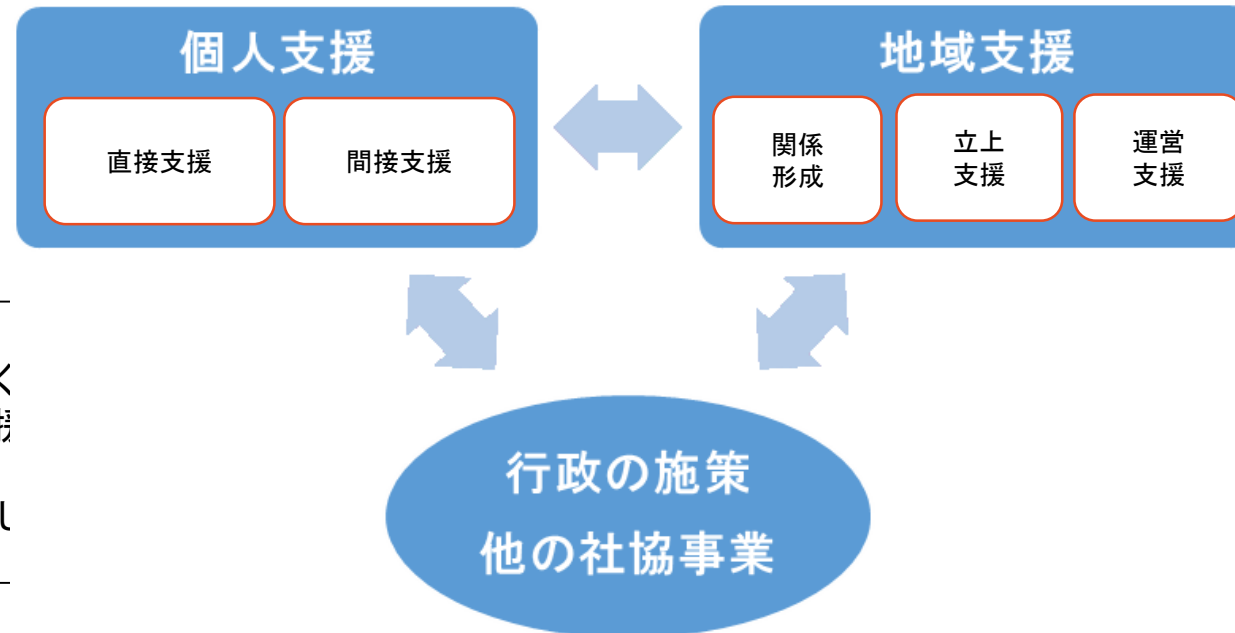
- (1) 地域福祉コーディネーターの役割
- (2) 個人支援
- (3) 地域支援
- (4) ネットワークの見える化
- (5) まとめ

Ⅱ - (1) 地域福祉コーディネーターの役割

①地域福祉コーディネーターの目標

住民等からの相談を受け、地域の中へ入り、地域の人々や関係機関と協力して課題を明らかにし、解決に向けた支援をする。また、住民主体の地域活動に対する立上げや運営支援を行う中で、住民がより自主的に活動を発展できるような支援を行う。

②地域福祉コーディネーターの主な役割



個人支援の役割

- ・「とりかえしのつかない状況」を未然に防ぐ
- ・複雑な課題をもった方への寄り添った支援 (個人直接支援)
- ・地域住民や関係機関・団体、行政と連携し (個人間接支援)

支援の役割

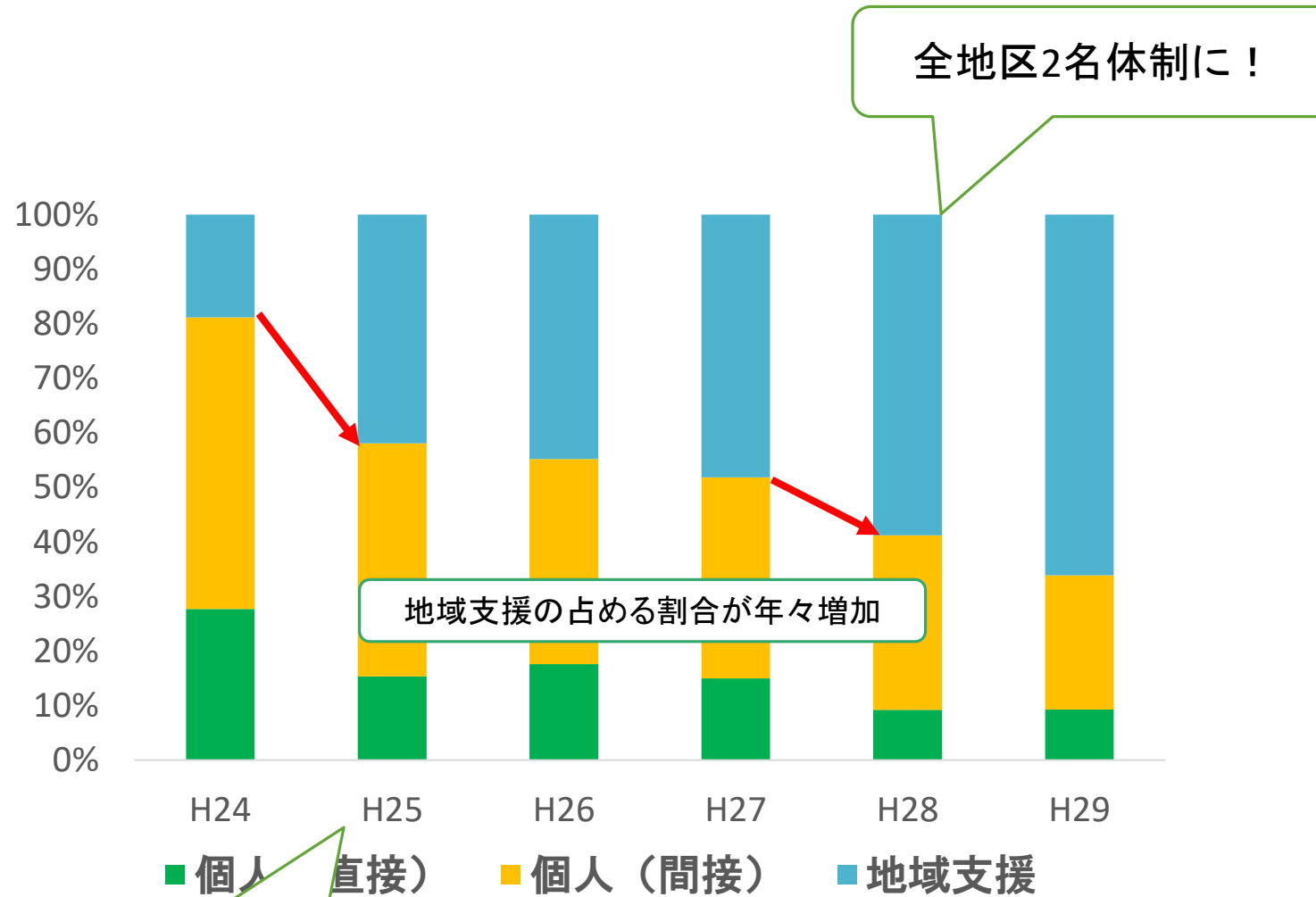
- ニーズを把握する (関係形成)
- ・(立上支援)
- する (運営支援)

Ⅱ - (1) 支援タイプ別件数の推移

※個人支援・地域支援のみ抜粋

年度	個人支援		地域支援				
	直接支援	間接支援	関係形成	立上	運営	連絡調整	
1名配置	H24	278	536	189			
		計	814				
1名配置	H25	229	637	626			
		計	866				
2名配置	H26	552	1177	312	571	487	33
		計	1729	1403			
4名配置	H27	935	2302	845	816	833	513
		計	3237	3007			
8名配置	H28	889	3078	1702	1064	2054	834
		計	3967	5654			
8名配置	H29	837	2213	1663	1497	2157	631
		計	3050	5948			

Ⅱ - (1) 支援タイプ割合の変化



Ⅱ - (2) 個人支援活動タイプ件数

相手先

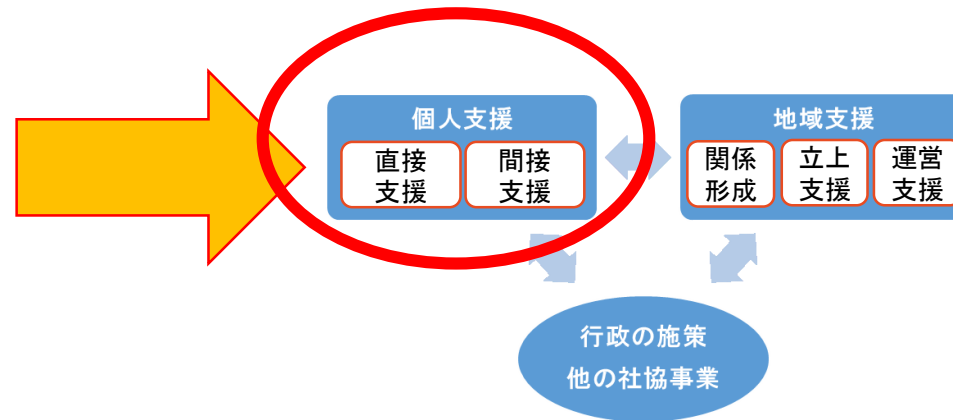
本人・親族など

関係機関・地域住民など

(件)

個人 直接支援			個人 間接支援			支援タイプ
関係形成	個別対応	連絡調整	関係形成	個別対応	連絡調整	計
146	601	56	181	1605	170	2759
5.29%	21.78%	2.03%	6.56%	58.17%	6.16%	100%

平成29年度8名集計分の個人支援の中から、直接支援と間接支援を抜き出したもの



Ⅱ - (2) 個人支援の事例 (プロセス)



地域福祉コーディネーターが関わる前



地域福祉コーディネーターが関わった後

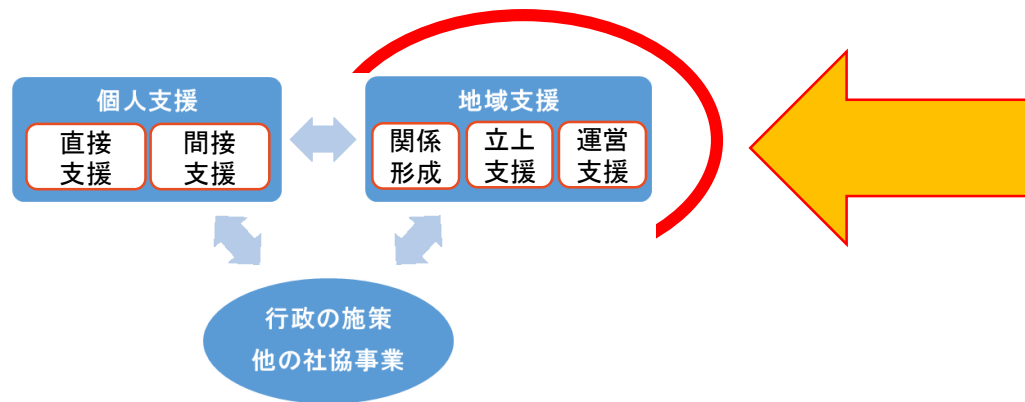


Ⅱ - (3) 地域支援活動タイプ件数

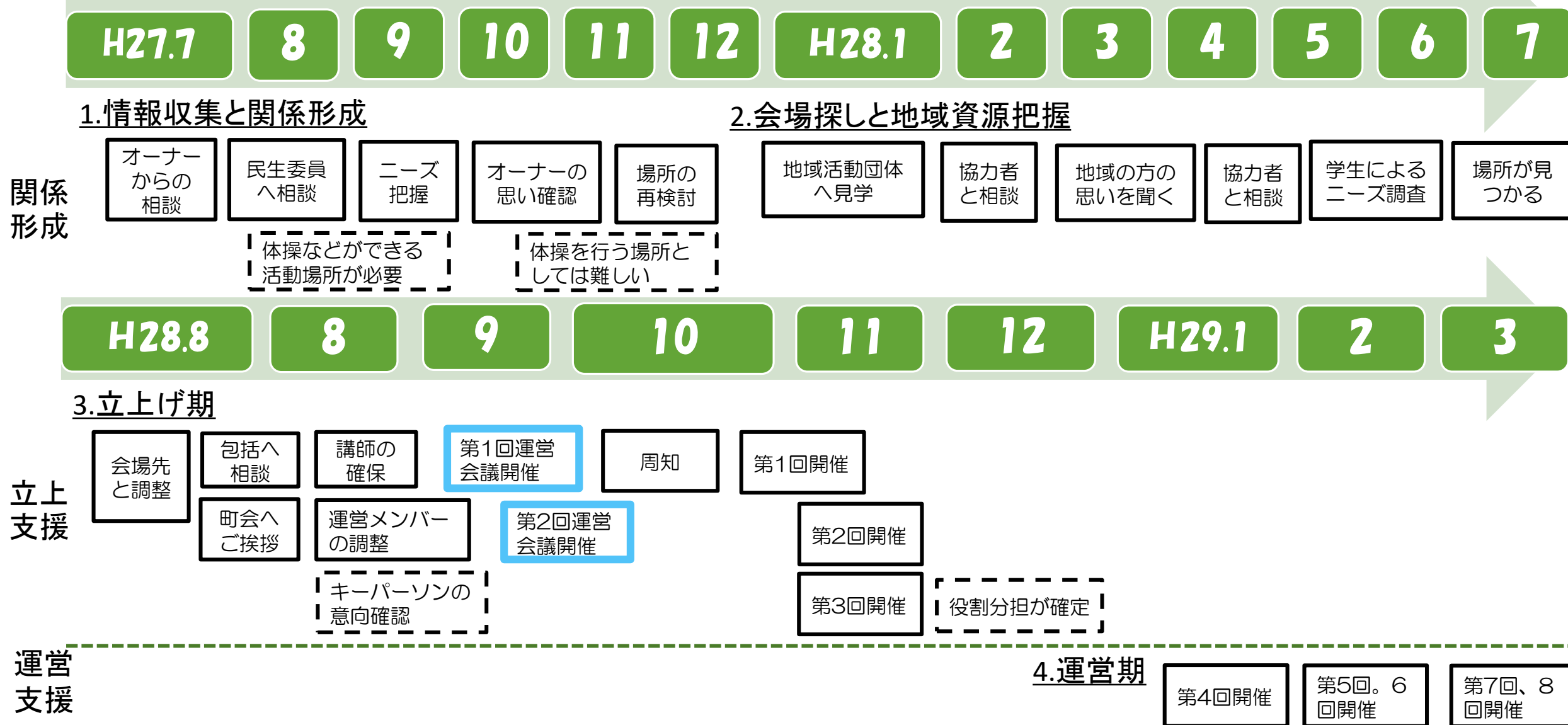
(件)

地域支援				支援タイプ
関係形成	立上支援	運営支援	連絡調整	計
1318	1474	2092	596	5480
24.05%	26.90%	38.18%	10.88%	100%

平成29年度8名集計分の地域支援を抜き出したもの



Ⅱ - (3) 地域支援の事例 (プロセス)



Ⅱ - (3) 地域支援の事例 (プロセス)



「坂下には集まる場所がなかった」
「楽しく体操して、杖を忘れて帰った」



Ⅱ - (3) 地域支援の事例 (プロセス)



Ⅱ - (4) 対象ケース数（支援回数別）

	支援回数	ケース数
個人支援	1～9回	247
	10～19回	30
	20～29回	14
	30～39回	9
	40～49回	4
	50回～	7
	計	311

	支援回数	ケース数
地域支援	1～9回	225
	10～19回	52
	20～29回	23
	30～39回	19
	40～49回	3
	50回～	31
	計	353

平成29年度8名集計分から、個人支援と地域支援の対象ケースを支援回数ごとに分類したもの

インフォーマル(IF)資源

- 本人・親族 ■ 近隣住民・友人 ■ 民生・児童委員 ■ ボランティア ■ みまもりサポーター
- 家主・管理人 ■ 町会・自治会 ■ ボランティア・市民活動団体 ■ 当事者グループ ■ その他

フォーマル(F)資源

- 福祉政策課 ■ 高齢福祉課 ■ 子育て支援課 ■ 健康推進課 ■ 障害福祉課 ■ 生活福祉課
- 子ども家庭支援センター ■ 教育センター ■ 保健サービスセンター ■ 地域活動センター
- 高齢者あんしん相談センター ■ 警察・消防 ■ 障害者基幹相談支援 ■ サービス事業所
- 福祉サービス ■ 福祉施設 ■ 福祉団体 ■ 医療施設 ■ 企業・事業所(民間)センター
- 企業・事業者 ■ 区議会議員 ■ 弁護士・行政書士 ■ その他専門職 ■ 大学
- 幼・小・中・高・専門学校 ■ その他公共施設 ■ その他行政

その他

- 学識経験者 ■ 宗教団体 ■ 総務係(社協) ■ 地域福祉推進係(社協) ■ フミコム(社協)
- あんしんサポート文京(社協) ■ ささえあいサポート係(社協)
- ボランティア支援センター(社協) ■ 他自治体 ■ 他社協 ■ その他

Ⅱ－（４）平成29年度ネットワーク上位抜粋

順位	相手資源	全体	%
1	ボランティア・市民活動団体	2918	27.5%
2	本人・親族	853	8.0%
3	町会・自治会	775	7.3%
4	高齢者あんしん相談センター	752	7.1%
5	民生・児童委員	687	6.5%
6	ボランティア	463	4.4%
7	福祉施設	402	3.8%
8	大学	381	3.6%
9	みまもりサポーター	270	2.5%
10	高齢福祉課	268	2.5%
11	生活福祉課	265	2.5%
12	企業・事業所(民間)	238	2.2%
13	その他行政	190	1.8%
14	地域活動センター	141	1.3%
15	近隣住民・友人	139	1.3%
16	サービス事業所	128	1.2%
17	他社協	123	1.2%
18	医療施設	122	1.2%
19	地域福祉推進係	101	1.0%
20	福祉政策課	97	0.9%

順位	相手資源	個人支援	%
1	本人・親族	771	25.7%
2	高齢者あんしん相談センター	391	13.1%
3	民生・児童委員	251	8.4%
4	生活福祉課	218	7.3%
5	みまもりサポーター	190	6.3%
6	ボランティア・市民活動団体	173	5.8%
7	近隣住民・友人	95	3.2%
8	高齢福祉課	88	2.9%
9	あんしんサポート文京	73	2.4%
10	障害者基幹相談支援センター	65	2.2%

順位	相手資源	地域支援	%
1	ボランティア・市民活動団体	2705	44.2%
2	町会・自治会	673	11.0%
3	ボランティア	391	6.4%
4	民生・児童委員	343	5.6%
5	福祉施設	310	5.1%
6	大学	214	3.5%
7	高齢者あんしん相談センター	207	3.4%
8	企業・事業所(民間)	161	2.6%
9	本人・親族	158	2.6%
10	地域活動センター	99	1.6%

(件)

Ⅱ - (4) 支援対象別ネットワーク

個人支援

相手先資源				
F資源	IF資源	本人・親族	その他	計
1222	849	771	155	2997
40.8%	28.3%	25.7%	5.2%	100%

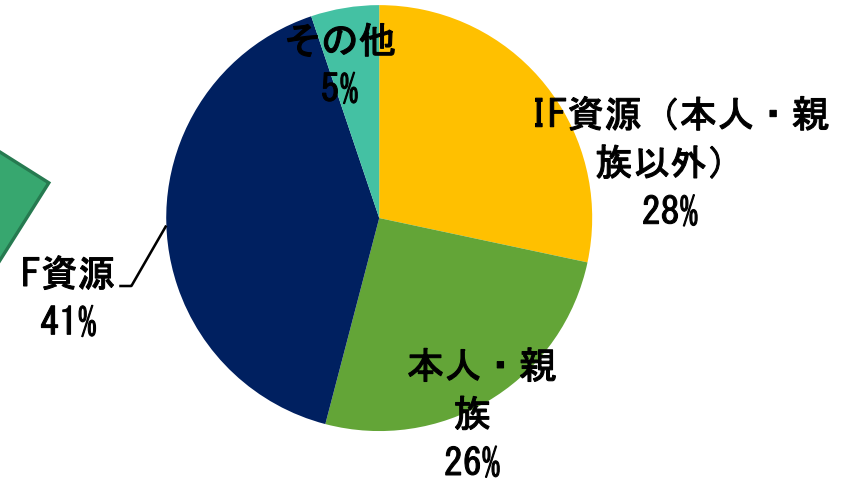
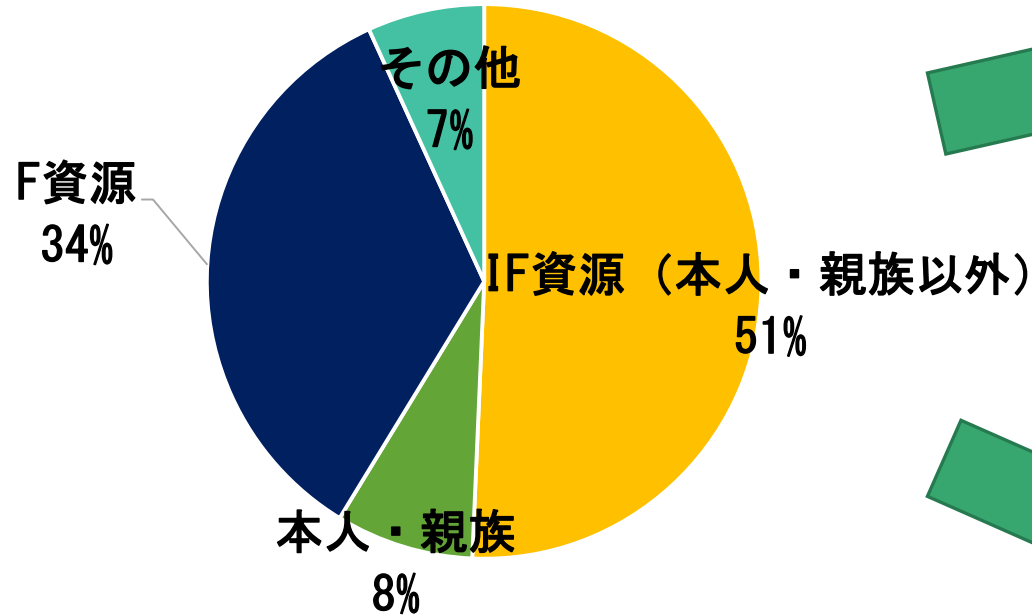
地域支援

相手先資源				
F資源	IF資源	本人・親族	その他	計
1508	4261	158	195	6122
24.6%	69.6%	2.6%	3.2%	100%

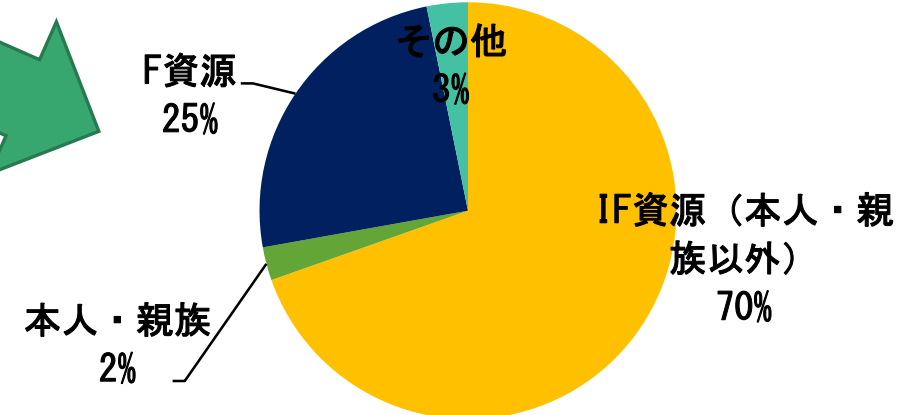
Ⅱ - (4) 支援対象別ネットワーク

相手先割合（個人支援）

相手先割合（H29全体）



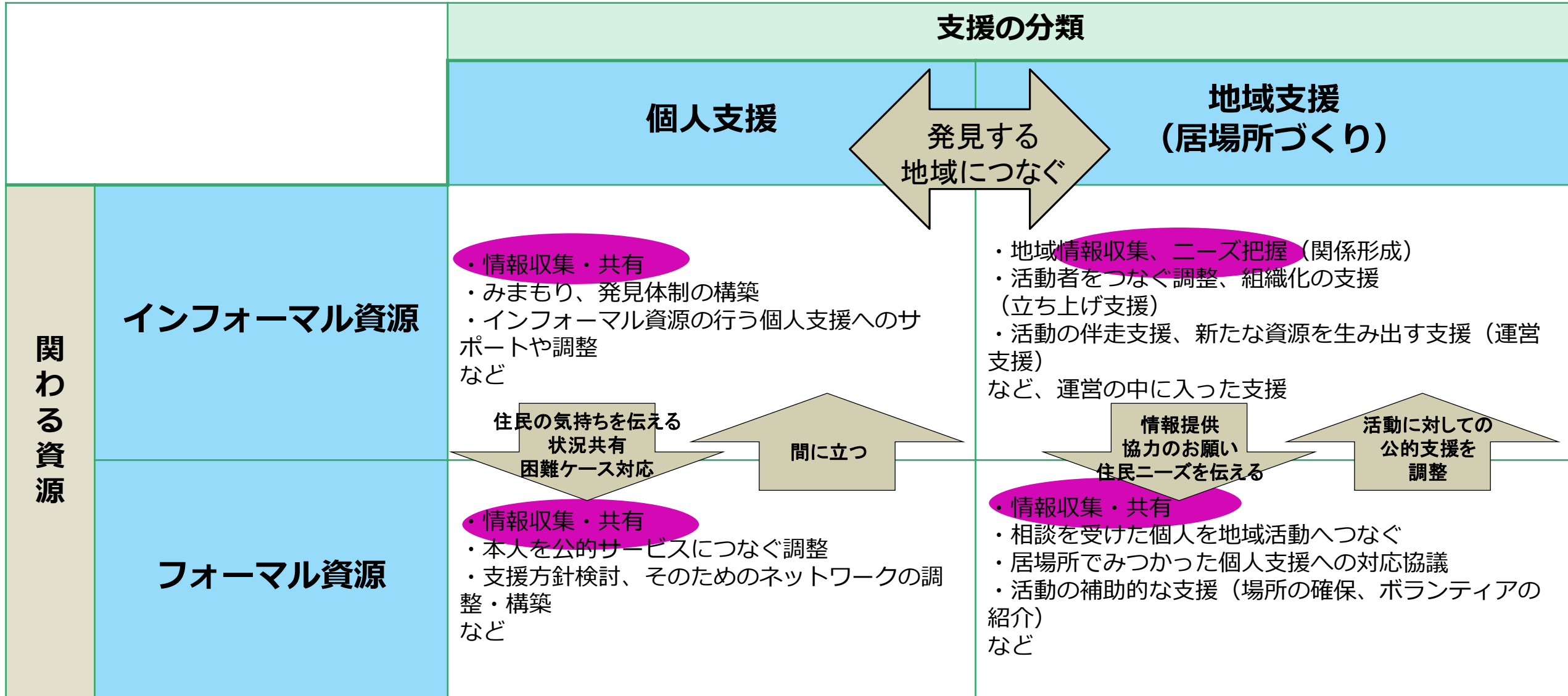
相手先割合（地域支援）



相手先選択	IF資源(本人・親族以外)	本人・親族	F資源	その他
全体	5376	853	3653	724
個人支援	849	771	1222	155
地域支援	4261	158	1508	195

※1回の支援で個人支援と地域支援の両方のNoをとっている、またどちらもとっていない場合があるので、全体は両者を合わせた値にならない

Ⅱ - (5) 地域福祉コーディネーターの機能と資源の関係



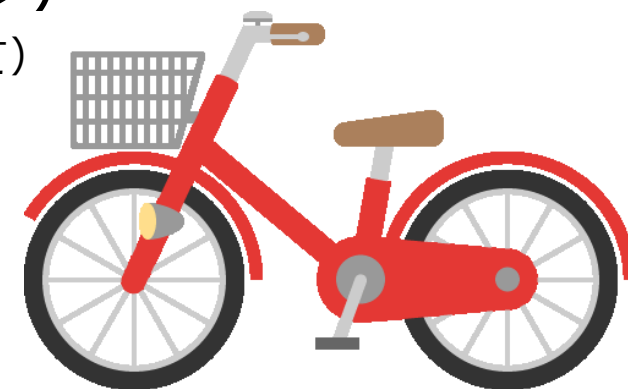
今感じているこれからの課題

- 👉 多機関との連携の効率化
- 👉 コーディネーターの拡充



本日お話しさせていただく内容

- I はじめに（近藤）
- II 地域福祉コーディネーター活動報告（近藤）
（地域福祉コーディネーターのネットワークの可視化について）
- III 生活支援コーディネーター活動報告（本多）
（「かよい〜の」効果測定について）
- IV 終わりに（本多）



追加

Ⅲ. 生活支援コーディネーター 活動報告

Ⅲ 生活支援 コーディネーター 活動報告

目次

- (1) 生活支援コーディネーターの役割
- (2) 配置後に取り組んだ重点
 - ①ニーズ把握のための活動者分析
 - ②仕組みづくりと立上支援
 - ③通いの場事業の効果測定

政策的な枠組み

- ・平成26年の介護保険法改正により創設された介護予防・日常生活支援総合事業

- ・地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することで、地域の支え合い体制づくりを推進し、要支援者等に対する効果的かつ効率的な支援を可能とすることを目的とする

- ・地域において、生活支援等サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす「生活支援コーディネーター」を第1層、第2層に配置し、「資源開発」「ネットワーク構築」「ニーズと取組のマッチング」を行う。

（厚生労働省 2015：3）

文京区における地域福祉コーディネーターとの役割比較

※個人支援

地域福祉
コーディネーター

※地域支援

生活支援
コーディネーター

②

③

④

⑥

① ⑤

※個人支援…制度の狭間にある課題や複雑な課題を持った事例に対し、様々なネットワークを活かして個人への支援を行う役割

※地域支援…地域の中で住民が行う仕組みづくりなどを支援する役割

■ 生活支援・介護予防サービスの開発のための取組

- ① 地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起
- ② 地縁団体等の多様な主体へ協力依頼などの働きかけ
- ③ 関係者のネットワーク化
- ④ 目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一（規範的統合）
- ⑤ 生活支援の担い手の養成やサービスの開発
- ⑥ ニーズとサービスのマッチング（※利用者レベルは第3層）

配置状況

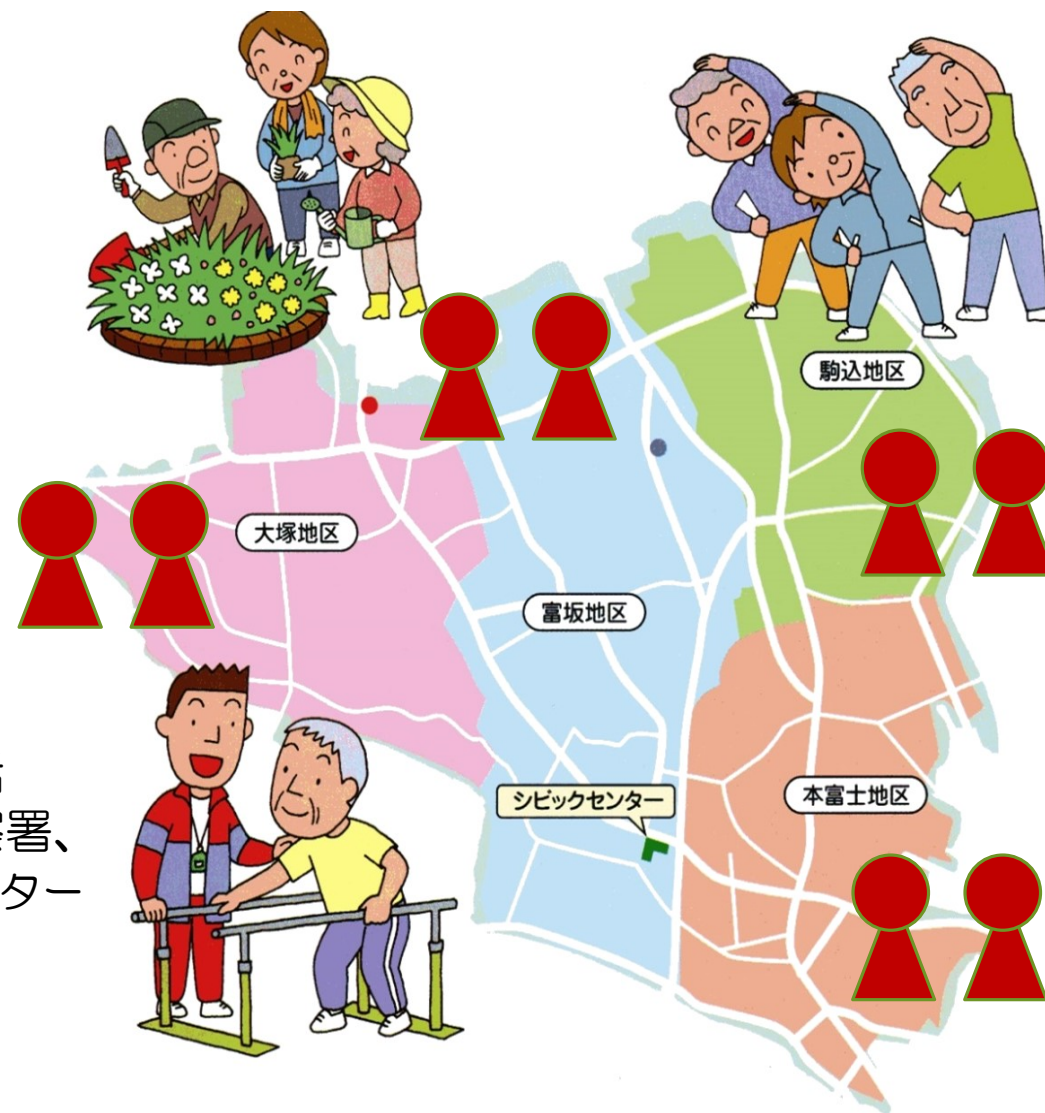
- 地域福祉コーディネーターと兼任
- 常勤8名体制
- 全員が2層

生活支援コーディネーター

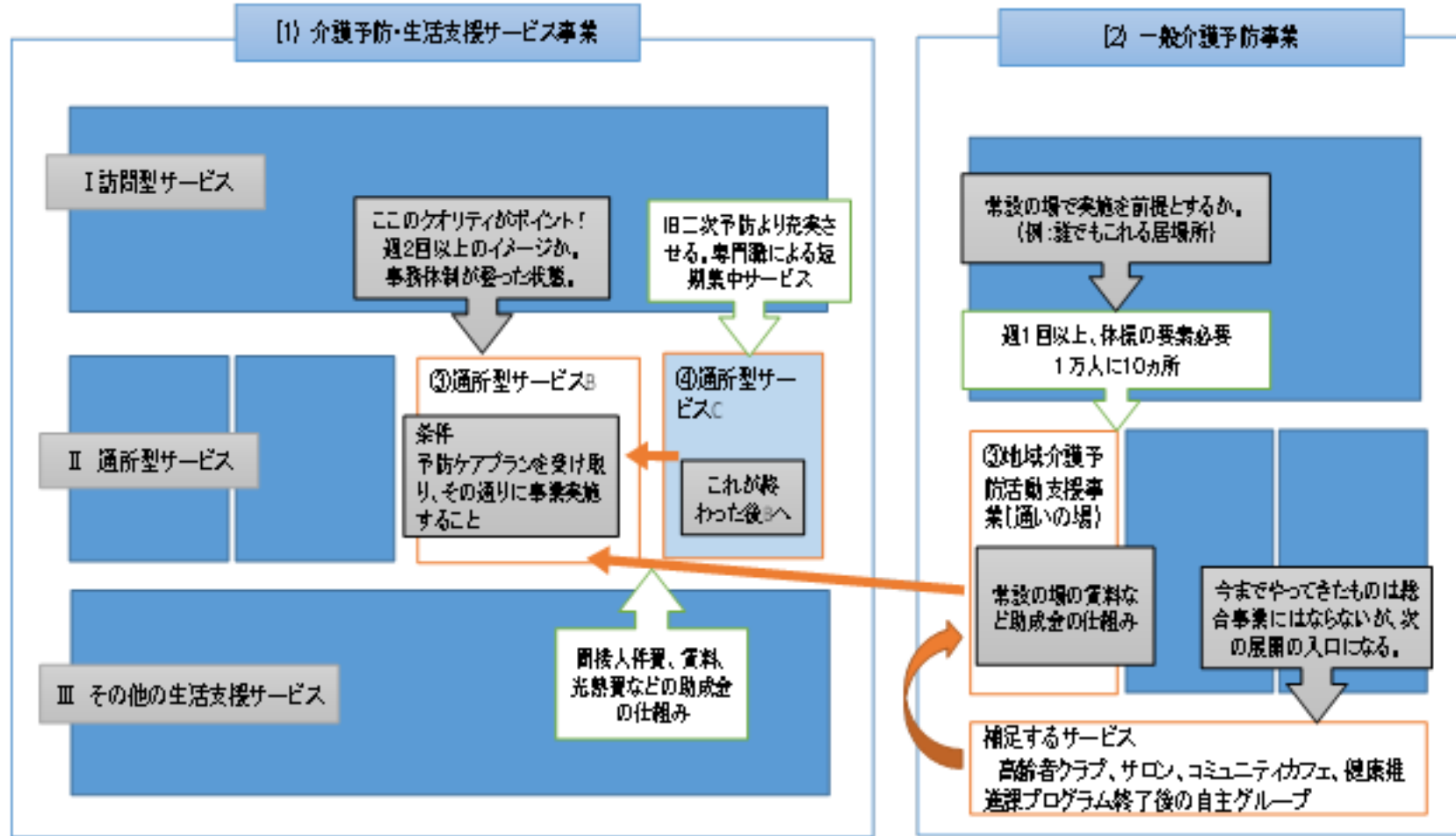
(1層は未配置)

《4地区》
民生委員、地域包括
支援センター、警察署、
地域福祉コーディネーター

《9地区》
地域活動センター、
町会連合会



文京区における役割とポイント



上記の表を使用し、区と役割とポイントを整理した

Ⅲ－（１）生活支援コーディネーターの役割

配置前後の経緯

取り組み内容	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小地域福祉活動の推進	小地域福祉活動の推進（地域福祉コーディネーターの配置）						
	・駒込地区		・富坂地区 （モデル地区）	・大塚地区 ・本富士地区			
		地域懇談会の開催					
		モデル地区以外の地盤固め					
生活支援コーディネーター					全4地区に生活支援コーディネーター配置		

※日常生活圏域

民生委員・児童委員、高齢者あんしん相談センター、話し合い員、高齢者クラブと同一の地区区分

Ⅲ－（２）配置後に取り組んだ重点

文京区社協における生活支援コーディネーターの取り組み

【配置前に取り組み始めていたこと】

- 地縁団体等、多様な主体への働きかけ
- 関係者のネットワーク化
- 目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一

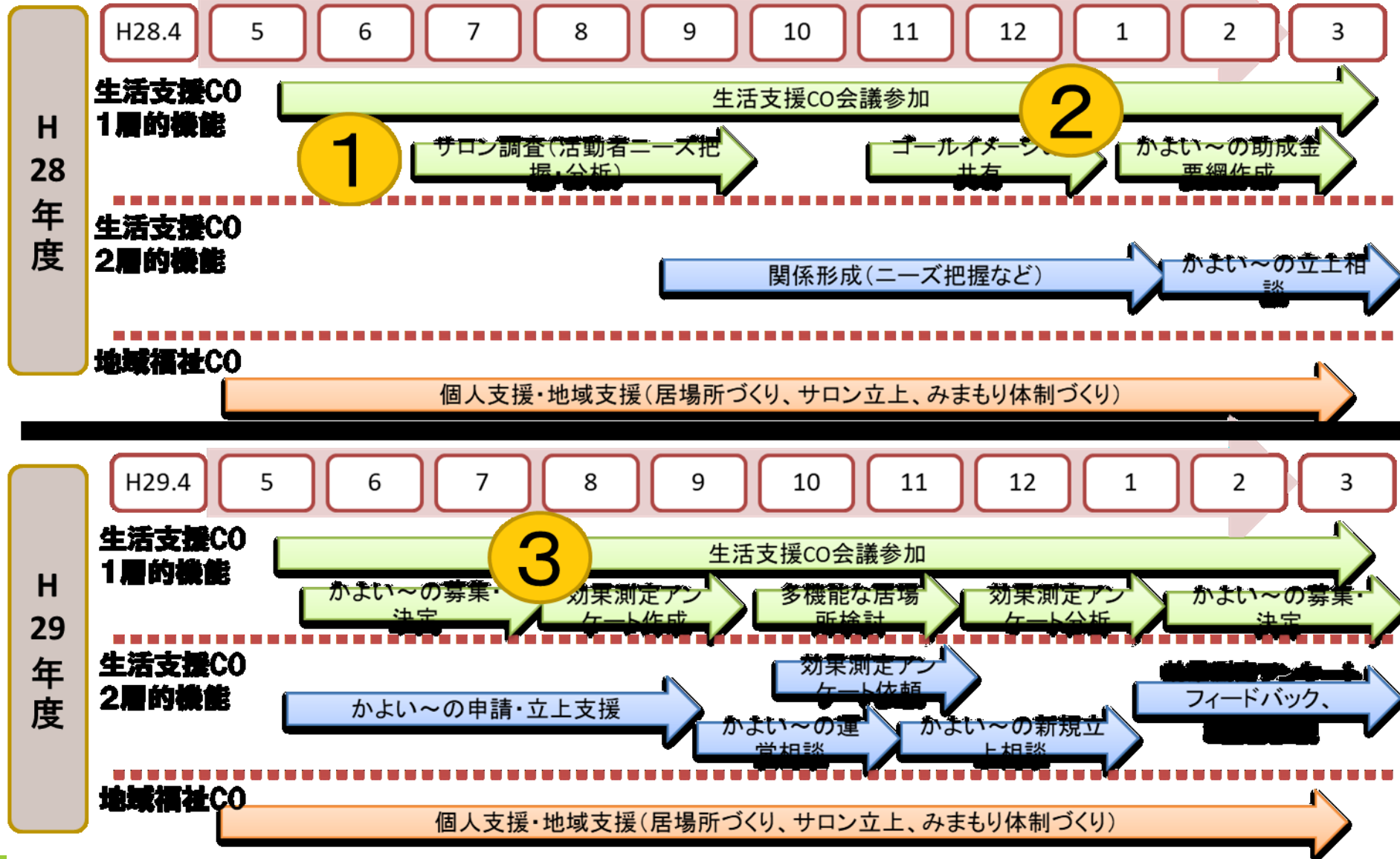
【取り組みたいと思っていたが 取り組めていなかったこと】

- 地域ニーズと資源状況の見える化
- 生活支援の担い手の養成やサービスの開発

↓
H28年度、生活支援コーディネーターが配置されたことにより、
「取り組みたいと思っていたが取り組めていなかったこと」に着手
以下の3点が、重点ポイント

- ①ニーズ把握のための活動者分析
- ②通いの場事業の仕組みづくり、立上支援
- ③通いの場事業の効果測定

Ⅲ - (2) 配置後に取り組んだ重点



Ⅲ－（２）重点①ニーズ把握のため

「通いの場」のための新たな
助成金の仕組みをつくる前に…



まず始めに

ニーズ把握

- 担い手側が抱えている課題に答えられるもの
- どのような課題があり、どのような支援があれば活動を広げていけるか



Ⅲ - (2) 重点①ニーズ把握のため

活動プログラム別の実施回数（単位：団体数）

1

プログラム名	月1回以下	月1回	月2回	週1回	週2回	合計
1 手芸	0	4	0	0	0	4
2 歌	2	4	1	1	0	8
3 絵手紙	0	1	1	0	0	2
4 懇親の時間						
6 英会話	0	1	1	0	0	2
7 囲碁	0	0	0	1	0	1
8 麻雀	1	0	0	0	1	2
9 食事(調理含)						
10 ダンス	0	2	0	7	1	10
11 脳トレ	0	2	2	4	1	9
12 体操	1	4	8	24	2	39

介護予防の運動に加えて、「食事」と「懇親の時間」が多い

交流

追加

調査からわかったこと



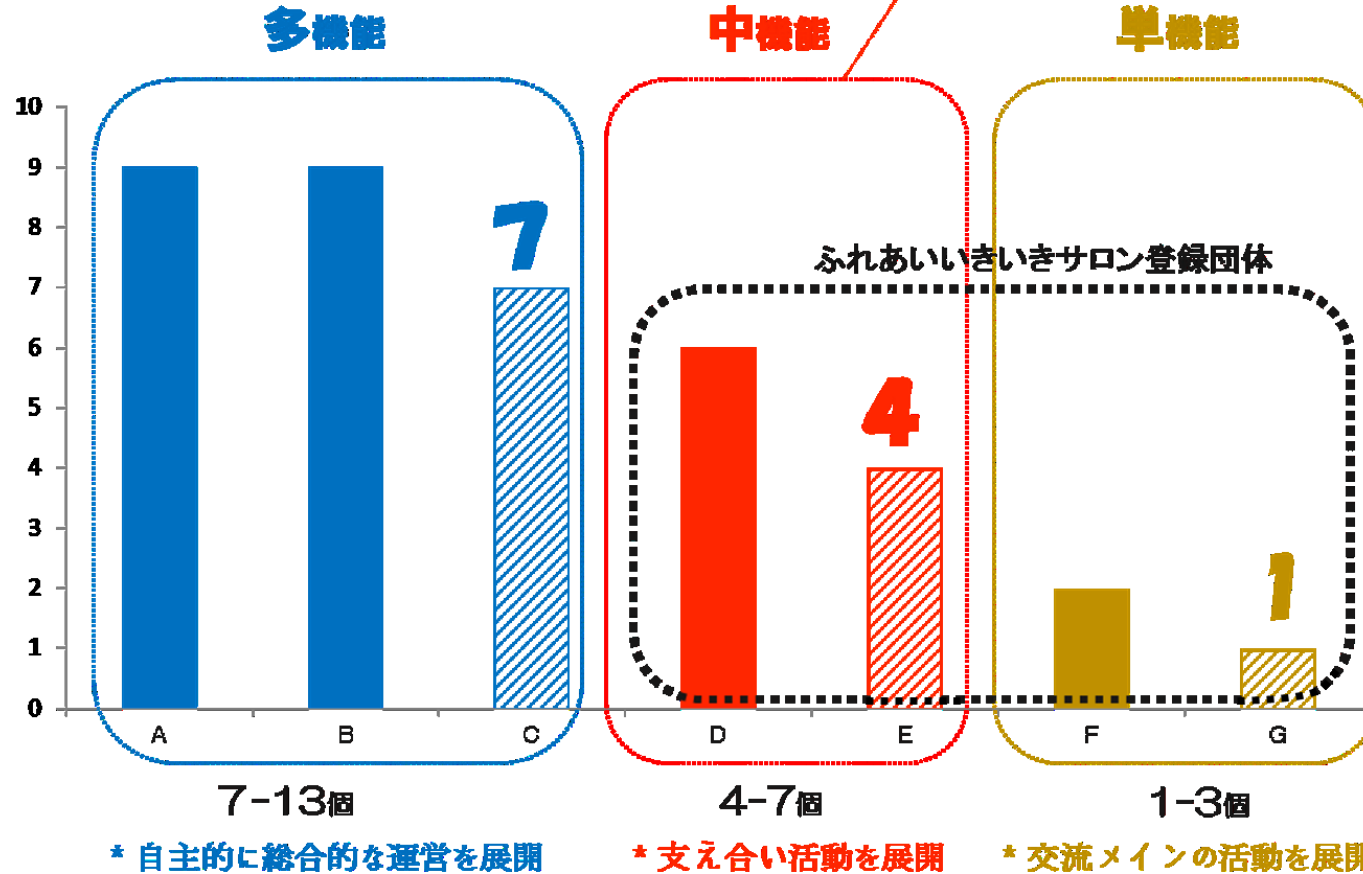
- 住民活動の多様性（活動の種類）
- 介護予防活動への参加だけでなく、
「役割をもつ」ことが重要であること



ゴールイメージを行政と整理、共有

Ⅲ - (2) 重点①ニーズ把握のため

活動種類から整理した住民活動



❗ 中機能の(4~7種類の活動を行う)団体・居場所を増やす支援に注力することを行政と合意した

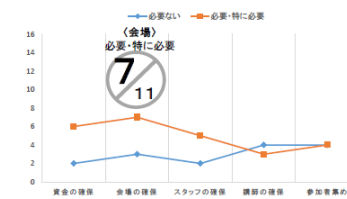
Ⅲ - (2) 重点①ニーズ把握のため

(1) ターゲットの整理 (表3)

期待度	開催頻度	施設分類	団体数	通いの場	通所B型	方針	活動類型	
1	週2	私設	—		○		私設型コミュニティカフェ等	
2			—		○		私設会場/地域施設 空き時間利用型 例:民間学童	
3		準公設	3		○	通所B移行検討	準公共施設 サロン	
4		私設	2		○	通所B移行検討	私設会場/地域施設 サロン	
5	週1		11		○	週1→週2	私設会場/地域施設 サロン	ターゲットA
6	月1・2回	私設	14	○	○	月1・2→週1へ	私設会場/地域施設 サロン	ターゲットB
7	月1・月1未満		2	○	○	月1未満→週1へ	私設会場/地域施設 コミュニティカフェ	
8	月4回(週1)		23	○	△	週1→週2	公共施設 サロン 例:介護予防体操、ダンスなど	ターゲットC
9	月1・2回	公設	13	○	△	月1・2→週1へ	公共施設 サロン	ターゲットD

(2) 開催回数を増やす際に必要だと感じている支援

ターゲットA 私設週1(団体数:11団体)



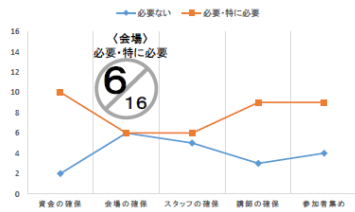
- 私設においても会場の確保にま
- している団体が多い
- 資金面の必要性においても会
- ズがある可能性がある
- みどりの郷
- 今年度3月までで施設側の都
- 可能性もあり、活動消滅の可



10

(2) 開催回数を増やす際に必要だと感じている支援

ターゲットB 私設月1・2回 (団体数:16団体)



- 資金の確保と参加者集めに課題あり
- プログラム内容が懇親と食事なので、参加者集めにパワーがかかる
- プログラム内容を継続するのであれば、回数増は難しい
- 本来のサロンの目的・形態に近い
- 参加者ニーズに合わせてプログラム支援が必要

3- II 必要な支援について

- 第2位...資金
- 支出...1回あたり平均:会場費1,143円/講師謝礼3,799円/消耗品1,023円
 - 講師謝礼が発生している38団体のうち34団体が第一次予防系...講師謝礼の捻出に苦戦
 - 2000円以下...16団体(42%) 同士の指導) 2001円以上...22団体(58%) (プロスタッフからの指導)

会場が確保できない！

16

Ⅲ－（２）重点②仕組みづくりと立

通いの場事業「かよい～の」

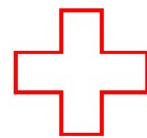
参加者同士の助け合い・支え合い活動（欠席者の状況確認、専門職への相談等）を行いながら、体操等の介護予防の取組みを週1回以上行っている団体で、その活動の運営費を補助する。

運営費は会場費、講師謝礼、消耗品費等に充てることができる。

2



介護予防機能



支え合い助け合い



Ⅲ - (2) 重点②仕組みづくりと立

「かよい~の」登録団体(平成29年3月末)

2

- | | |
|--------------------|--------------|
| ① ぶんきょう脳トレジム | 脳トレ体操など |
| ② それいゆ | 体操・エアロビなど |
| ③ コーシャ千石ふれあいサロン | 文の京体操など |
| ④ 風のやすみば | 貯筋体操など |
| ⑤ 転ばぬ先のストレッチサロン | 転倒予防など |
| ⑥ とらいあんぐるタイム | 貯筋体操など |
| ⑦ みょうがの会 | ストレッチ、運動など |
| ⑧ あすなる会 | 音楽療法、脳トレ体操など |
| ⑨ ひまわりママ | ころばぬ体操など |
| ⑩ ツリー・アンド・ツリーかよい~の | ヨガ・脳トレなど |
| ⑪ 向丘クラブ | カーレットなど |
| ⑫ カーレット文京CLUB | カーレットなど |
| ⑬ みんなの体操 | ストレッチ、体操など |
| ⑭ ののぼず | カーレット、ゆる体操など |
| ⑮ だれでもテニス汐見 | 体操、ソフトテニスなど |
| ⑯ MEGUMI会 | 転倒骨折予防体操など |



Ⅲ - (2) 重点②仕組みづくりと立

「かよい~の」例 (コーシャハイム千石ふれあいサロ

2

① 居場所・交流



■ 交流サロンを実施 (※内容を住民同士で検討)

③ 生活支援



■ みんなで食事を作り食べる (※休みの人には届ける)

⑤ 相談支援



■ 住民同士で個人の人の状

② 健康づくり



■ 週1回「文の京体操」を実施 (※年1回講師招く)

④ 見守り



■ 無断欠席の人には訪問して様子を伺う

⑥ 地域づくり



■ クリスマス会と誕生日会(年2回)を開催、バザー出店

Ⅲ - (2) 重点②仕組みづくりと立

「かよい~の」例 (カーレット文京CLUB)

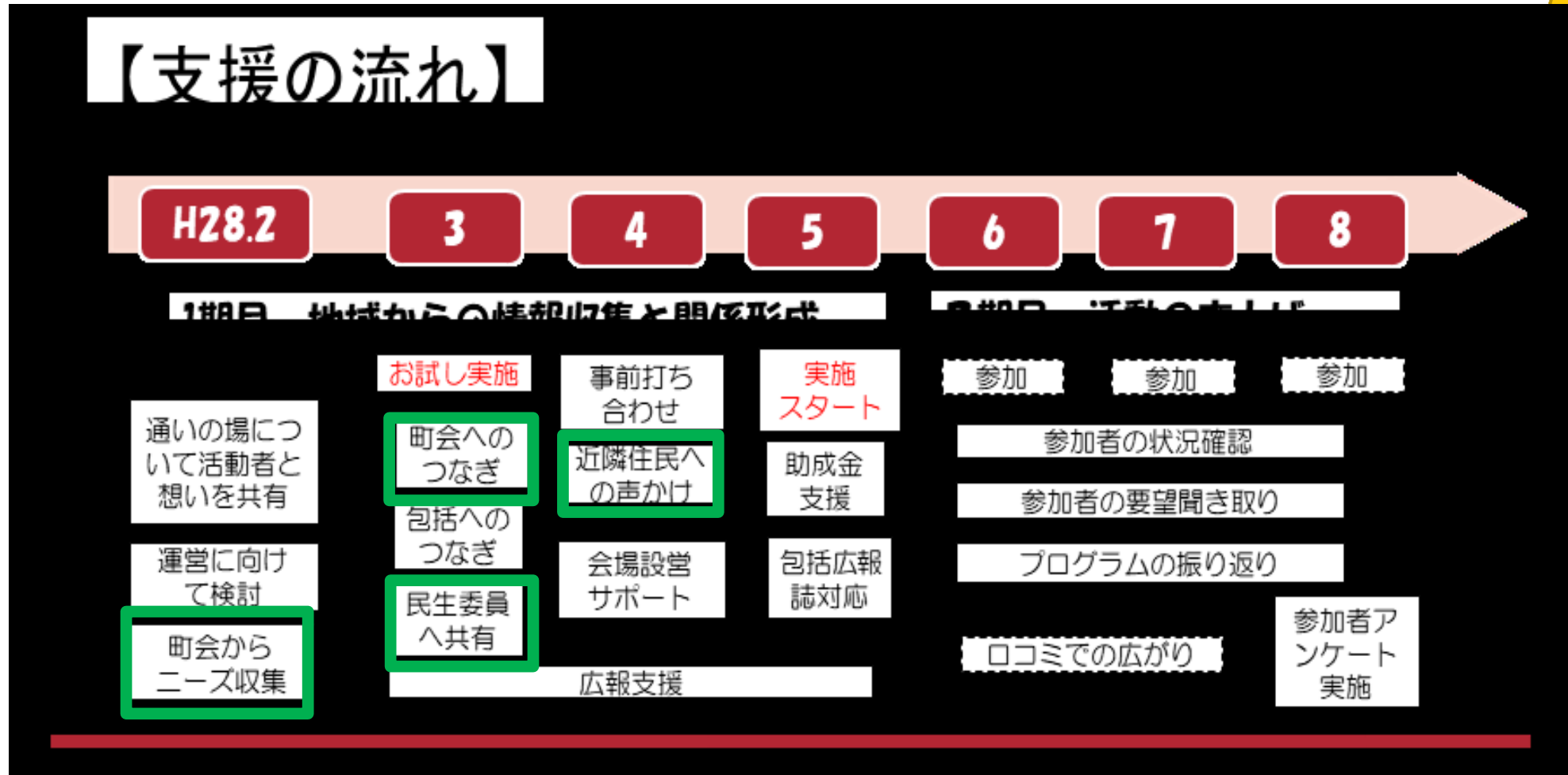
2



Ⅲ - (2) 重点②仕組みづくりと立

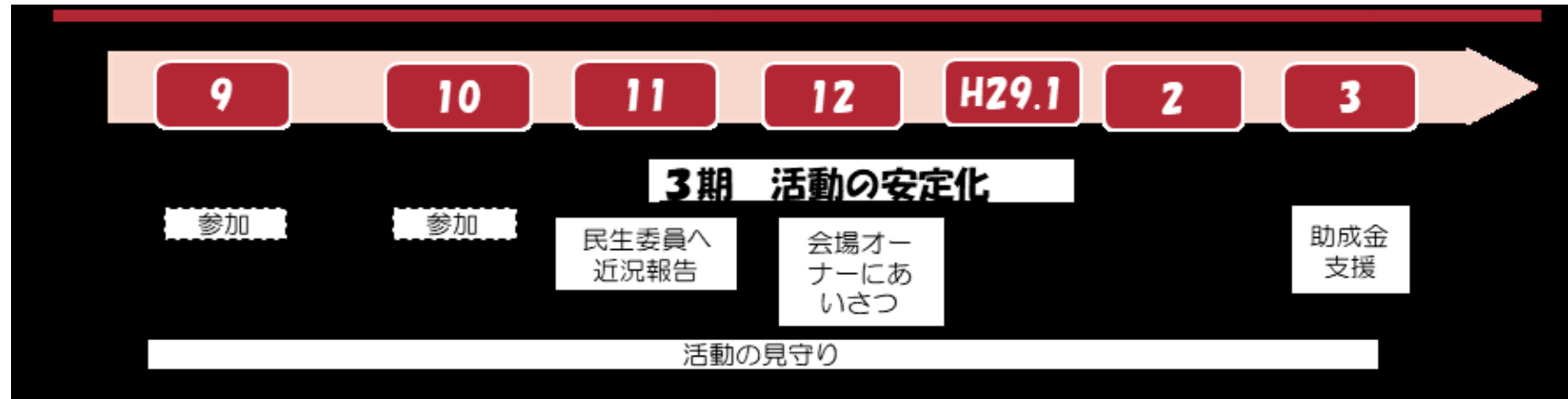
「かよい~の」立上支援 (ぶんきょう脳トレジム)

2



Ⅲ - (2) 重点②仕組みづくりと立

「かよい~の」立上支援（ぶんきょう脳トレジム）



Ⅲ - (2) 重点③通いの場事業の交

「かよい~の」参加者アンケート



(ア)実施対象 : 「かよい~の」19団体 参加者約250名

(イ)実施時期 :

第一回 平成29年7月24日配布、平成29年9月末日回収×切

第二回 平成30年2月配布、平成30年3月末日回収×切

(ウ)実施方法 : アンケート調査

かよい~の参加者アンケート

このアンケートは、平成29年7月より開始した地域の交流型活動づくり推進事業「かよい~の」の参加者の力を対象とし、かよい~の参加者様と年次単位で行っています。本事業は、国の高齢者施策の一部であり、目標の生活・身体状況にどのような変化があったのか、活動の目とその効果とを分析することは、効果に反映される重要な資料となるため、区の方針を踏まえながら調査を進めています。このため、個人に関する詳細な調査の記入をお願いしていますが、調査の結果を公開した場合は、ご協力いただきませう、同率お返し申し上げます。

ご記入にあたってのお願い

- 調査の結果は、調査目的以外に活用することはありません。本アンケートは、調査終了後、適宜方法で廃棄します。
- 本調査で得られた情報は、統計的に処理されるため、個人情報は保護されます。
- 口多様によるお礼ですが、ご記入いただいた皆さまは調査票の返信用封筒（切手不要）にて、平成29年8月31日（木）までに、ご返願ください。
- ご回答にあたっては、下記の事項にご留意いただきますようお願いいたします。
 - 回答は、該当する項目の番号に○印をつけるか、具体的な内容を記入してください。
 - 質問によって、○印は（あてはまるものなし）()（あてはまるものあり）() といったことわりが異なりますので、調査票にご留意ください。
 - 回答が「その他」にあてはまる場合は、_____ 下線の上に具体的な内容を記入してください。

記入日	年	月	日
かよい~の			
氏名			

※アンケートについてご質問のある方は、下記の連絡先までご連絡下さい。
社会福祉法人文京区社会福祉協議会 地区福祉推進課 電話：03-6800-2942

【1】ご自身について、お答えください。

(1) 性別	男 性 ・ 女 性
(2) 住 所	() 区 () 町 () 丁目
(3) 生年月日	大 正・昭 和 年 月 日 () 歳
(4) 世帯構成	独 居 ・ 両 居
(5) 介護保険の利用	1. 認定要否は不明なまま 2. 認定を受けていない申請していない 3. 申請中 受けているに○印をつける方は、以下のA、Bにお答えください。 → 1. 介護保険 (要支給 ・ 要介護 1・2・3・4・5) → 2. 介護サービス (受けている ・ 受けていない)

【2】本活動について、お答えください。

(1) いつから参加しているか
() 年 () 月 () 日 から (※今年が6の場合は「0」月と記入)

(2) 参加したきっかけ (あてはまるものすべてに○印)
1. 家族のすすめ 2. 友人からの誘い 3. 高齢者交流センターのすすめ
4. 区役所職員からのすすめ 5. 民生委員・児童委員からのすすめ 6. 掲示板
7. 広報 (公民館広報、区報等) を見て 8. ケアマネージャーからのすすめ
9. チラシ 10. 新聞(区報) 11. その他 ()

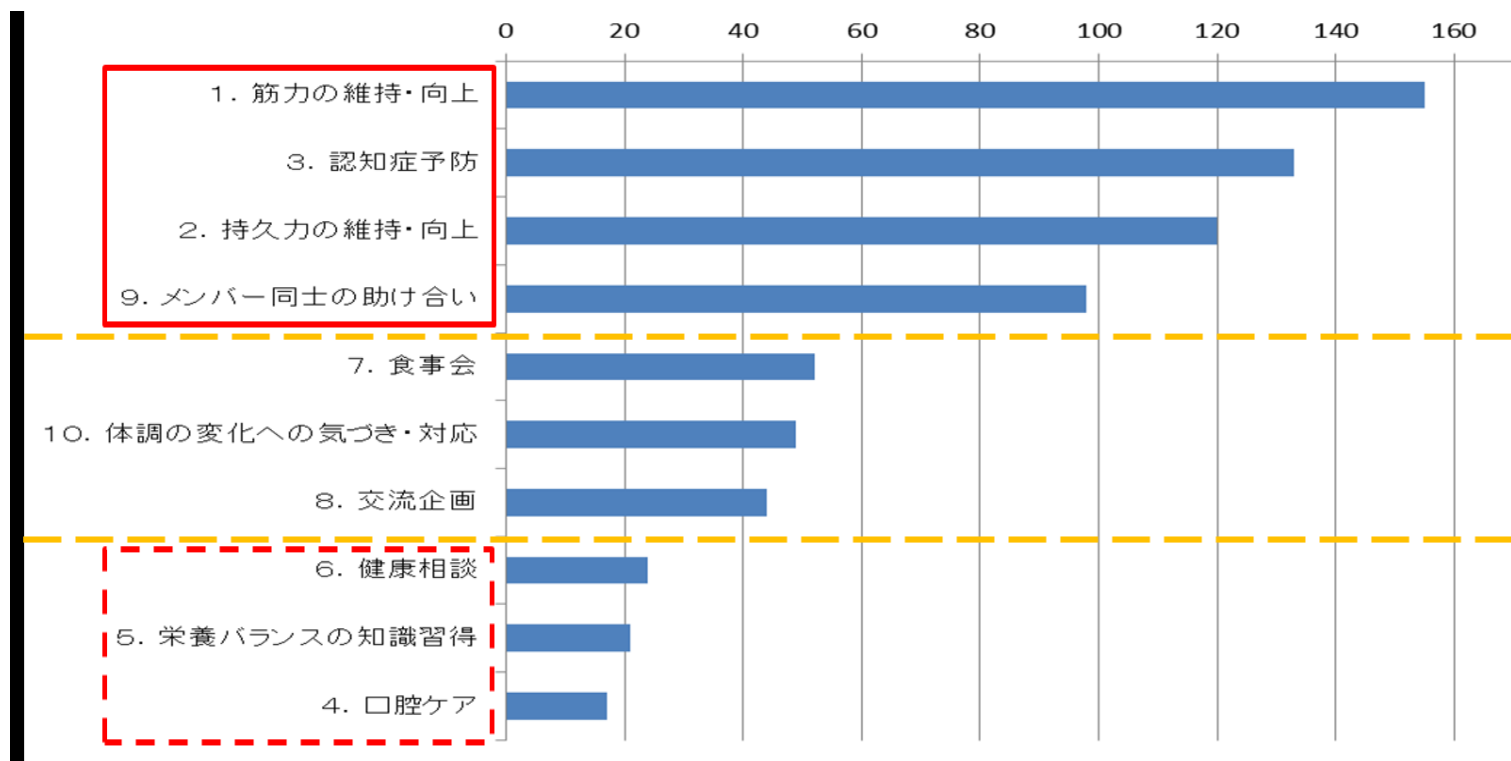
(3) 活動に参加していること (あてはまるものすべてに○印)
1. 参加の維持・向上 2. 持久力の維持・向上 3. 認知症予防 4. 口説ア
5. 充実/バランスの取れた生活 6. 健康増進 7. 食事会 8. 交流促進
9. ストレス軽減の期待が強い 10. 住居の活性化への貢献・対応
11. その他 ()

(4) 活動に参加してよかったこと (あてはまるものすべてに○印)
1. 体力が向上した 2. 仲間が安定した 3. 異ごがよくなった
4. 活動が楽しかった 5. 悩み事が減った 6. 相談できる相手が増えた
7. 外出する時間が増えた 8. 人との交流の機会が増えた 9. 膝の力がなくなった
10. 富た感が得られた 11. その他 ()

【3】本活動以外に、取り組んでいること(すべてに○印をつけてください)。
1. 自宅で定期的な体操活動や運動を行っている
2. 自宅外での活動 (区の健康や運動サークル、スポーツクラブ等) に参加している
3. 充実/バランスに気を付けている
4. 地域の活動 (町会、高齢者クラブ等) などに参加している
5. 家族、友人と交流している
6. 特に取り組んでいることはない
7. その他 ()

全体の傾向：活動への期待

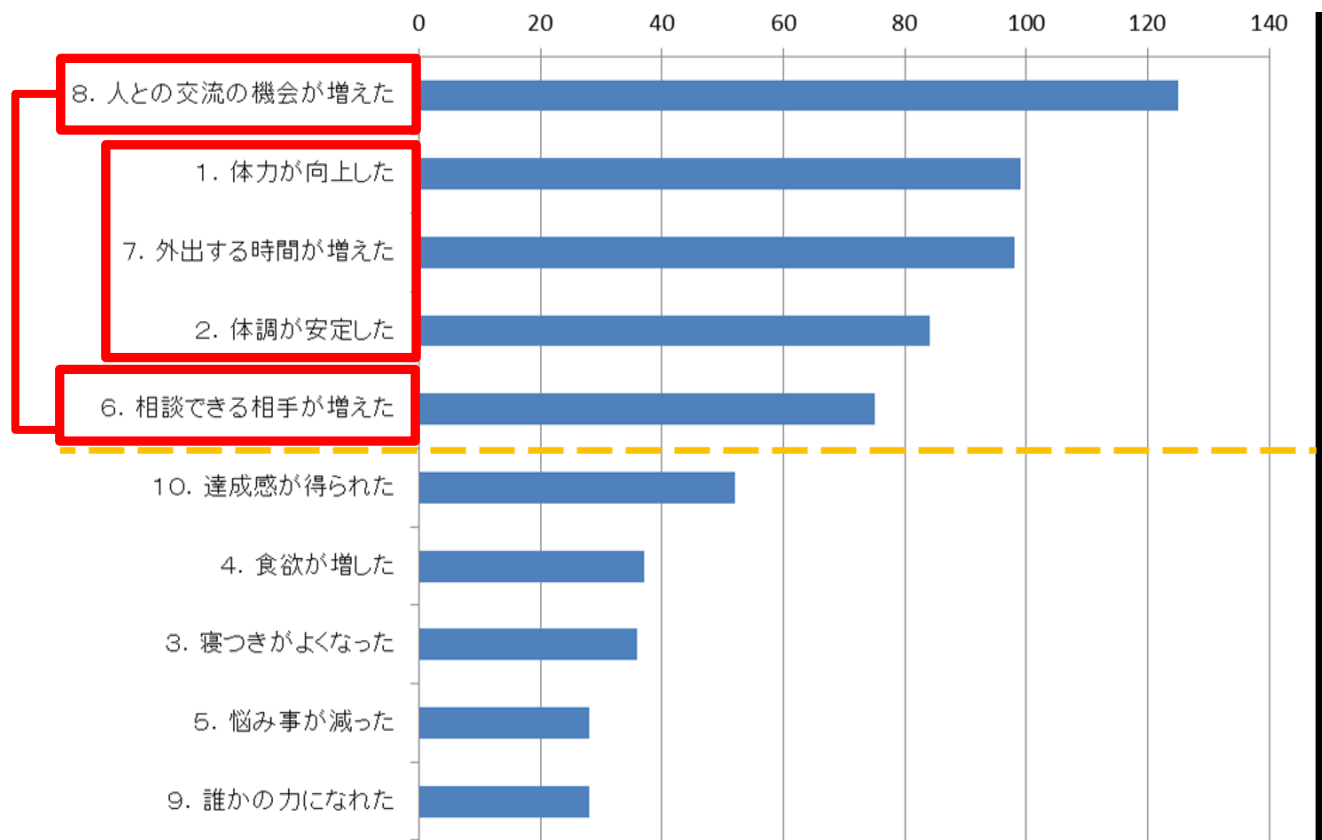
単純集計：「健康相談」や「口腔ケア」といった専門的な知識の必要な介護予防の機会よりも、「筋力の向上・維持」や「メンバー同士の助け合い」といった回答が多く、住民同士でもできる介護予防の機会に対しての期待が大きいことがわかった。



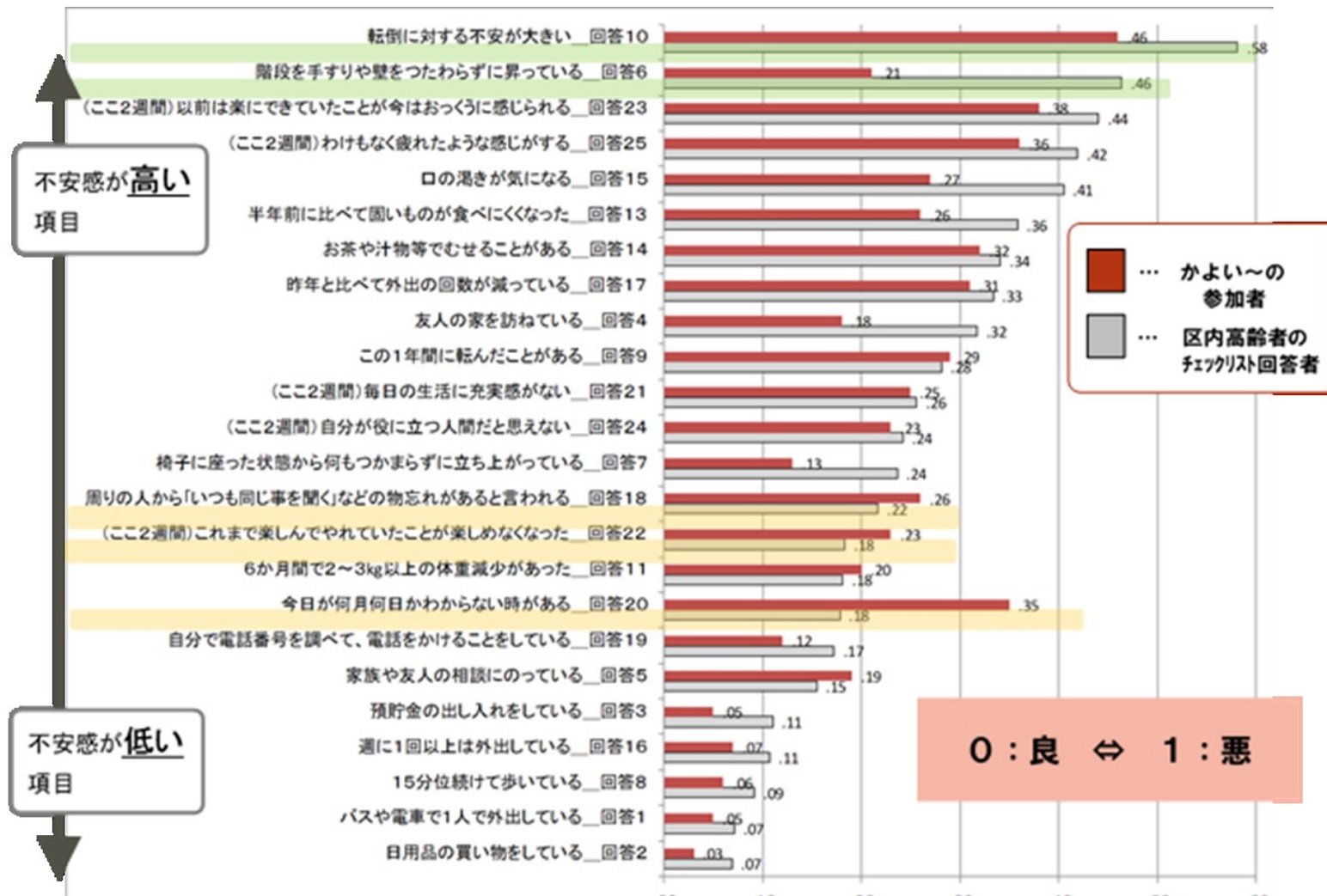
全体の傾向：活動の効果

単純集計

「人との交流の機会」や「外出の機会」の増加など、人との関わりに関する項目が上位を占めた。また「体力の向上」や「体調の安定」など身体的な向上の回答も多かった。



基本チェックリストの結果



アンケートからわかったこと



（ア）プログラム内容を体操系以外にも広げる

プログラム内容が体操系と体操系以外の違いで、参加者の傾向に違いが見られた。ゲーム性のあるスポーツ(カーレット等)は、男性や前期高齢者が多く、プログラムの多様さにより参加者の裾野が広がったと考えられる。

（イ）互助活動への期待の高さ

今回、活動への期待や効果の傾向からわかる通り、互助機能への期待が高い結果が現れた。参加期間が長い参加者の結果からも、活動を通じて体調の安定や人との交流がより増えたと感じており、想定していた結果が表れていると言える。今後もプログラムを拡大し、また活動が継続できる支援が必要である。

Ⅲ－（２）重点③通いの場事業の交



（ウ）同居高齢者への交流について政策的配慮の検討

世帯別に期待・効果を見た場合、独居よりも同居世帯の方が交流を必要としている結果が表れ、同居の内容としても夫婦、親子などの分類も深め、今後政策的配慮の検討が必要である。

（エ）文京区全体との比較と今後の調査

基本チェックリストを参照した質問項目により、区全体の高齢との比較が可能である。次回の分析以降でパネルデータ（観察単位を時系列で一定期間観察したもの）の分析を行う。

（オ）調査結果のフィードバック

調査結果を項目ごとに集計して、アンケート参加団体にフィードバックし、モチベーションアップなど各団体の運営支援を行った。

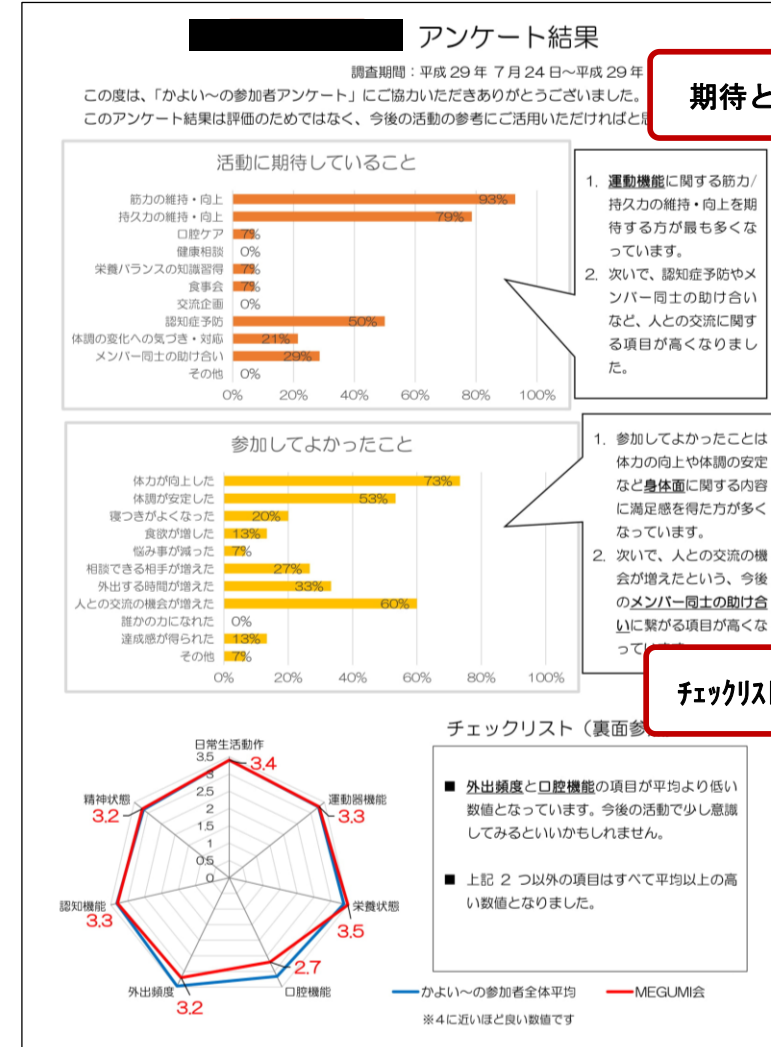
Ⅲ - (2) 重点③通いの場事業の交

団体に対するフィードバック

「かよい～の」参加団体に対して、団体ごとの参加者の効果測定結果をまとめ、下記のフィードバックシートをもとに、担当地区の生活支援コーディネーターが運営支援として情報提供を行った。

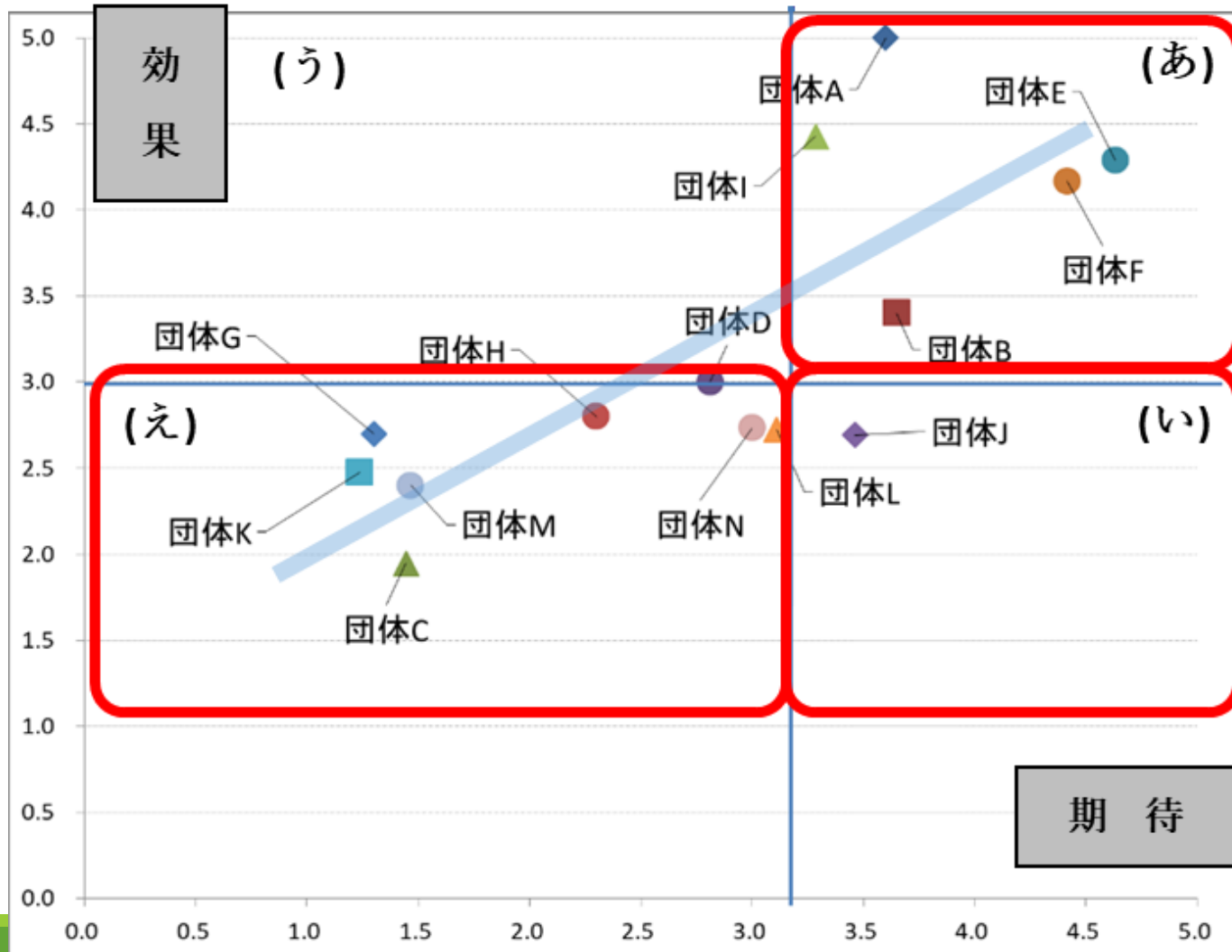
アンケートの中で、主に期待と効果、そして参加者のチェックリストの結果を「かよい～の」参加者全体の平均と比較し、今後の活動のポイントについてアドバイスをを行った。

【フィードバックシート】



Ⅲ - (2) 重点③通いの場事業の交

活動への期待・活動の効果を点数化したグラフ

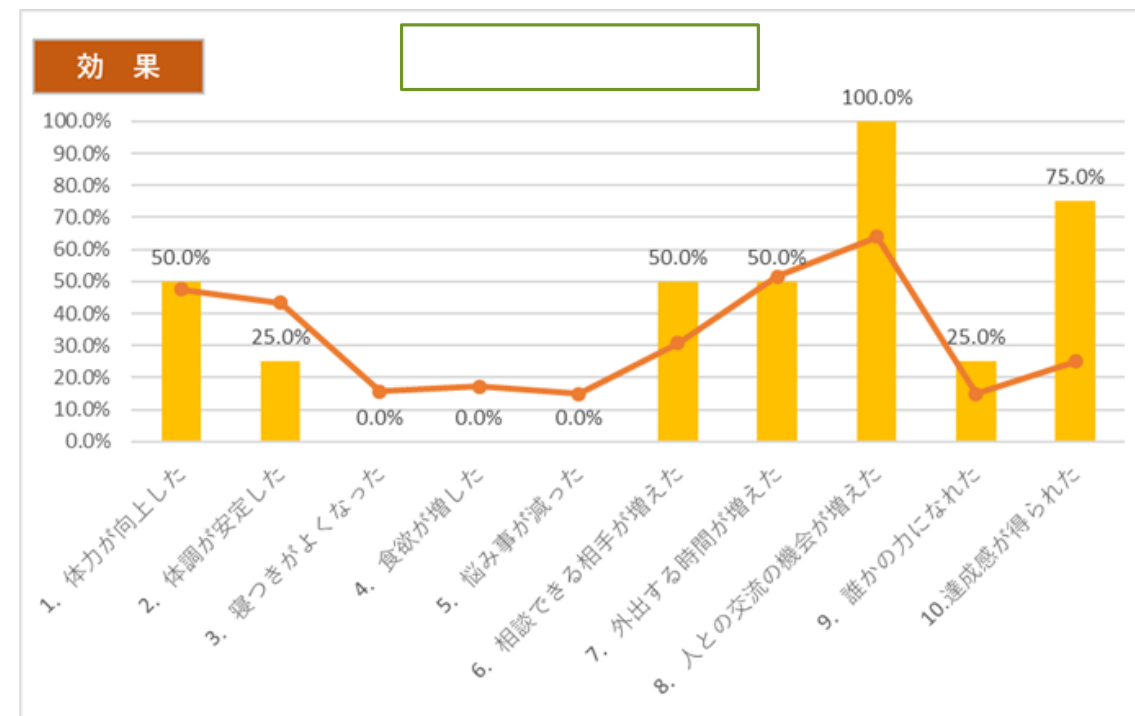
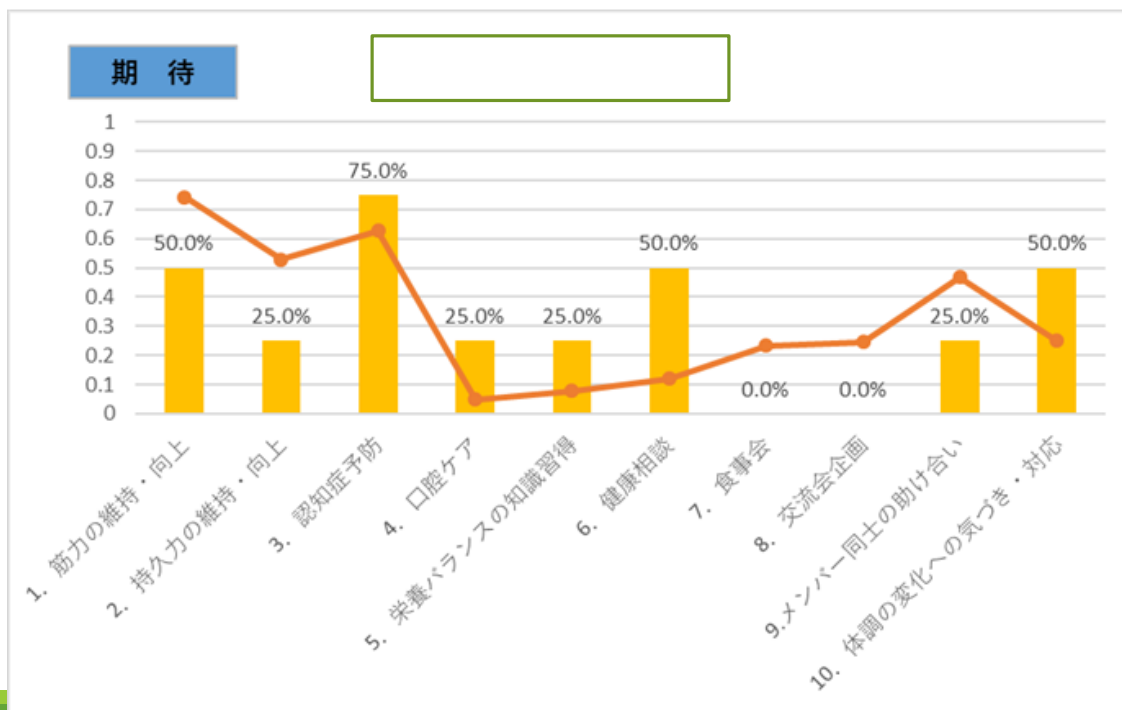
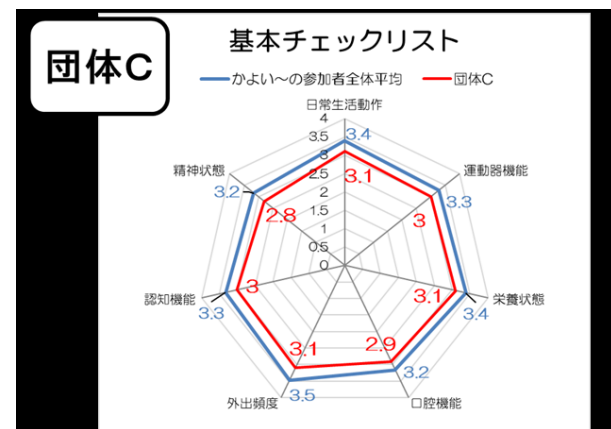


	活動期待合計	活動効果合計
団体A	5.0	3.6
団体B	3.4	3.7
団体C	1.9	1.4
団体D	3.0	2.8
団体E	4.3	4.6
団体F	4.2	4.4
団体G	2.7	1.3
団体H	2.8	2.3
団体I	4.4	3.3
団体J	2.7	3.5
団体K	2.5	1.2
団体L	2.7	3.1
団体M	2.4	1.5
団体N	2.7	3.0
合計	3.2	3.0

Ⅲ - (2) 重点③通いの場事業の交

事例) 団体Cへのフィードバック

視点: その団体のつよみを伸ばす



生活支援コーディネーター 活動報告のまとめ

①活動者のニーズを踏まえた仕組みづくり

②多様性のある地域の活動を立上げ

③調査を踏まえた、評価ではなく「エンパワメント」

IV. 終わりに

私たちが大事にしてきたこと…

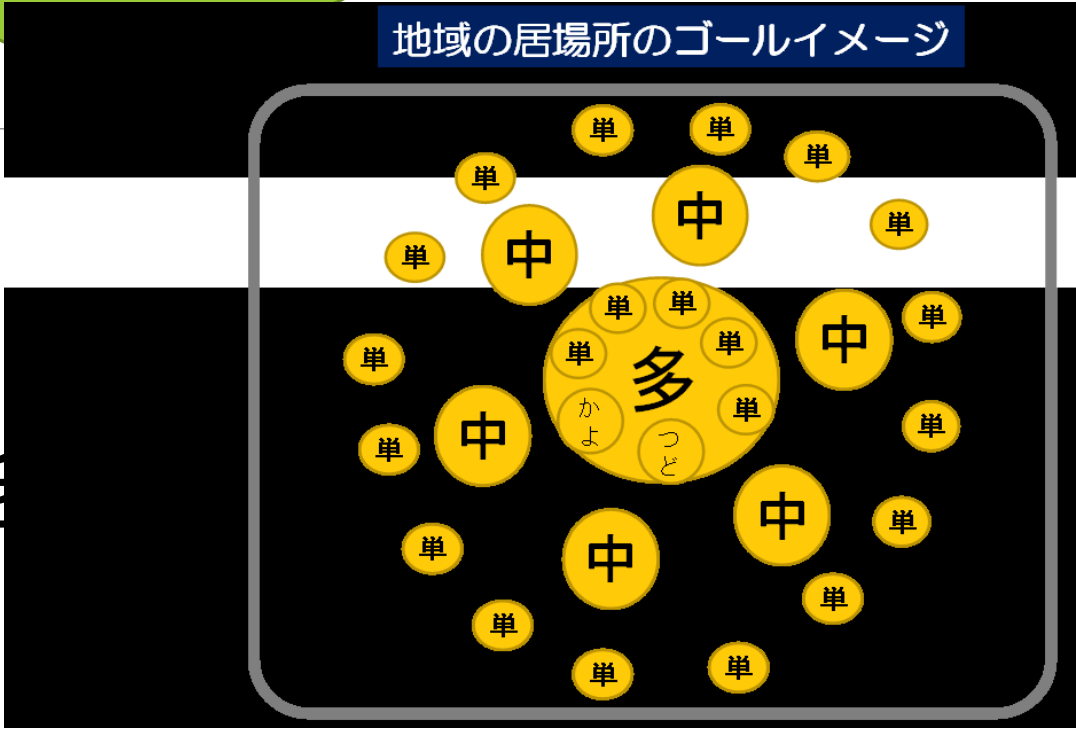
👉 “スキマ”へのアプローチ

👉 活動資源の創出

👉 活動の見える化

地域の居場所のゴールイメージ

多機能な居場所
(単機能、中機能、多機能)



地域共生社会へ

追加